

気象情報を知っておきましょう

雨・風・台風の強さと雨の降り方・風の吹き方を確認しましょう。気象情報で、「1時間雨量〇〇mm」「風速〇〇m」という表現が出てきます。その時の雨・風の強さや降り方・吹き方が具体的にどういったものなのか、確認してみましょう。

●雨の強さと降り方(1時間雨量:mm)

- 10mm以上20mm未満… ザーザーと降る雨。雨の音で話し声が聞き取りにくい。
- 20mm以上30mm未満… どしゃ降り。傘をさしていてもぬれる。
- 30mm以上50mm未満… バケツをひっくり返したように降る。道路が川のようになる。
- 50mm以上80mm未満… 滝のように降る。傘は全く役に立たなくなる。
- 80mm以上 …… 水しぶきで辺り一面が白っぽくなり、恐怖を感じる。



●風の強さと吹き方(平均風速:m/秒)

- 10m以上15m/秒未満… 風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。
- 15m以上20m/秒未満… 風に向かって歩くことが困難。電線が鳴り始める。
- 20m以上25m/秒未満… 何かにつかまっていなくて立ってられない。瓦など飛散するものがある。
- 25m以上30m/秒未満… 立ってられない。樹木が倒れることがある。
- 30m/秒以上 …… 屋外での行動は極めて危険。走行中のトラックが横転する。



●台風の強さ(最大風速:m/秒)

●台風の強さ

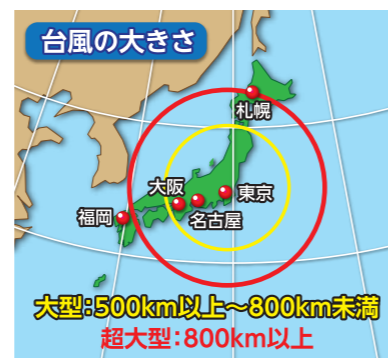
(最大風速:m/秒)

- 33m/秒未満 …… 強さの表現なし
- 33m/秒以上44m/秒未満 …… 強い
- 44m/秒以上54m/秒未満 …… 非常に強い
- 54m/秒以上 …… 猛烈な

●台風の大きさ

(風速15m/秒以上の半径)

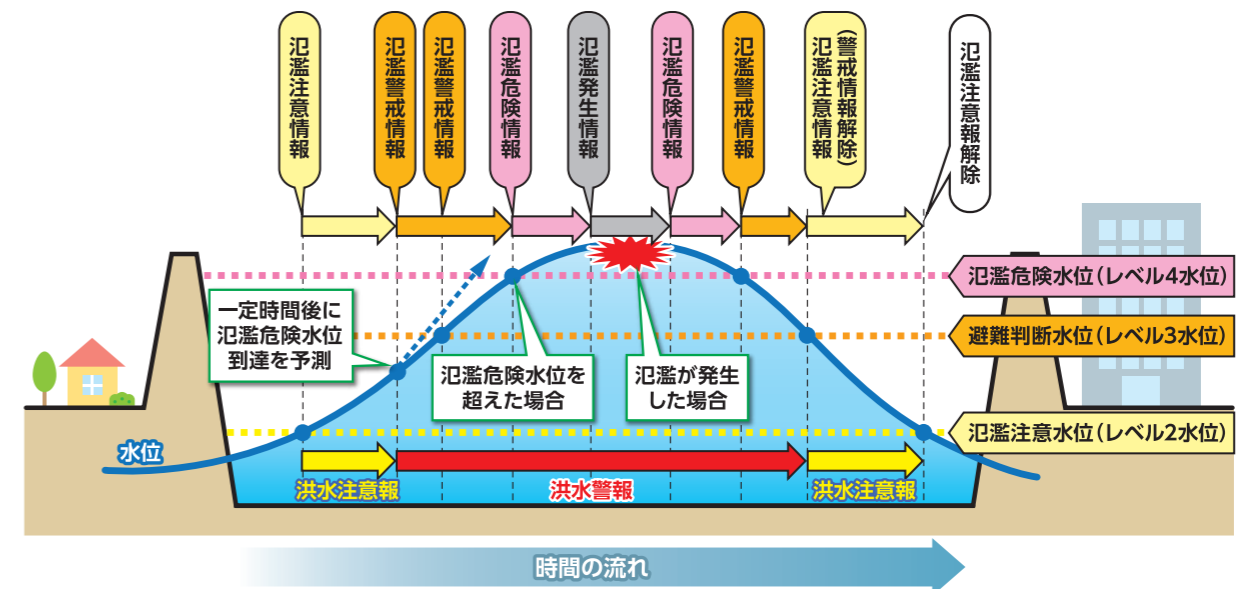
- 500km未満 …… 大きさの表現なし
- 500km以上800km未満 …… 大型
- 800km以上 …… 超大型



●洪水予報の種類

河川の増水や氾濫などに備えて、洪水予報の違いも知っておきましょう。

- 氾濫注意情報** 氾濫注意水位 (警戒レベル2相当) に達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合
- 氾濫警戒情報** 一定時間後に避難判断水位 (警戒レベル3相当) に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合、あるいは氾濫危険水位 (警戒レベル4相当) に到達が見込まれる場合
- 氾濫危険情報** 氾濫危険水位 (警戒レベル4相当) に到達した場合
- 氾濫発生情報** 氾濫の発生 (警戒レベル5相当)



●線状降水帯とは

短時間で積乱雲が大量発生し、線状に連なって長く一か所にとどまり、局地的に大雨を降らす気象現象のことです。近年、九州や中国地方を中心にこの線状降水帯によって引き起こされる大雨による水害が頻発しているため、令和3年6月から新たに気象庁の情報に「線状降水帯」という言葉が使われることになりました。

●大口町の過去の風水害

過去に昭和34年9月の伊勢湾台風、平成12年9月の東海豪雨など、大きな風水害が発生しました。最近では、平成29年7月に大雨で五条川が越水するなど、町内でも浸水の被害が発生しました。



昭和34年9月 伊勢湾台風



平成29年7月 豪雨